

第1回岩手県海岸保全基本計画検討協議会の議事概要について

日 時：令和7年3月3日（月）10：00～11：55

場 所：盛岡地区合同庁舎8F 大会議室（Web併用）

出席構成員：小笠原敏記構成員、有働恵子構成員、森下秀昭構成員、柴田亮構成員、
平山克也構成員

設置要綱第6条に基づく出席者：高橋透観測予報管理官

1 検討項目

① 海岸保全基本計画の概要

・ 検討手順、気候変動影響の実態や傾向を整理した。

② 気候変動を踏まえた計画外力の検討方針

・ 地殻変動、年平均潮位、朔望平均満潮位の変動傾向を確認し、朔望平均満潮位及び海面上昇量の設定を行った。

③ 津波浸水被害に対する計画外力の算定手法の検討

・ 津波シミュレーションの実施方針を整理した。

④ 高潮浸水被害に対する計画外力の算定手法の検討

・ 岩手県沿岸における潮位・波浪の観測結果を整理し、高潮・高波に対する必要天端高の算定方針を整理した。

2 協議会での主要な意見

・ 朔望平均満潮位の設定においては、現時点での変化傾向を分析し整理するとよい。

・ 海面上昇量の設定においては、これから公表される「日本の気候変動2025」の内容を反映させた方がよいと考える。

・ 代表4地域海岸における津波シミュレーション結果と朔望平均満潮位に海面上昇量を加算した結果とを比較した際に、どのような場合であれば全地域海岸での津波シミュレーションが必要又は不必要かを整理すること。

3 検討結果

① ・ 2℃上昇シナリオによる検討を行うこととした。

② ・ 朔望平均満潮位は平成29年度岩手県沿岸設計沖波推算業務委託での設定値とし、気候変動の影響は海面上昇量で考慮する方針とした。

・ 2100年時点において各種シミュレーションを実施することとした。

・ 「日本の気候変動2025」については、検討スケジュールと公表時期を勘案した上で、反映有無を決定することとした。

③ ・ 津波シミュレーション実施時の代表海岸の選定や、実施手順について今後検討していくこととした。

④ ・ 潮位偏差は100年確率、波浪は30年確率として高潮・高波に対する必要天端高を算定することとした。

・ 高潮・高波に対する必要天端高が、津波に対する必要天端高を上回らないことを確認することとした。